

# 九州産業考古学会報

第33号 2022年8月15日発行 発行元：九州産業考古学会



## 福岡鉄道遺産ものがたり

渡部邦昭（九州歴史資料館）

「福岡鉄道遺産ものがたり」とは、筆者の勤務先である九州歴史資料館で開催された、福岡県内の鉄道遺産を写真で紹介するパネル展のシリーズです。平成25年に「鹿児島本線編」として始まり、以降「糟屋地区編」「三池の炭鉱鉄道編」「北九州地区編」「筑豊本線・日田彦山線編」「平成筑豊鉄道編」「筑後地区編」と、路線別または地区別に計7回を開催してきました。戦

前に建造されたものを中心に、それぞれ副題に掲げた路線・地域に関する駅舎・トンネル・橋梁・そして保存車両などを紹介し、一部の回では文書資料や考古資料も展示しています。

言うまでもなく、福岡県は全国有数の鉄道雄県です。九州の中核としての位置づけに加え、筑豊や三池で石炭を産出したという背景から、明治時代より積極的に鉄道が敷設されました。そのため現在でも県内の随所に戦前、中には明治時代に作られた鉄道の構造物が現存しています。その豊富さたるや、展示を7回も行っても、まだ8回目が計画されるほどです。また、鉄道事業者による長年の保全への努力と、市町村教育委員会などによる保存や活用に向けた取り組みにより、貴重な鉄道遺産が現在まで守られてきました。文化財に指定・登録されている鉄道遺産もあり、特に門司港駅や筑後川昇開橋は、周知の如く国指定重要文化財となっています。

しかし、単に鉄道遺産が現存しているというだけでは、この展示はできません。筆者は北海道出身で、就職して始めて福岡県の近代史と向き合う立場になったため、筆者一人では県内の鉄道遺産は到底把握できなかったでしょう。ですが福岡県には、鉄道遺産を含む近代化遺産に対して、分厚い研究の蓄積がありました。古くは福岡県教育委員会編『福岡県の近代化遺産』（福岡県文化財調査報告書 第113集）に始まり、多くの論文や図書、インターネット情報も充実しています。何より「九州の近代化遺産」シリーズ（弦書房）には大変助けられました。これらの豊富な研究蓄積と、さらに先輩職員の指導と助言があつて、初めて実現できた展示といえます。

いま筆者は、過去の鉄道建設と、近代化遺産の研究という、二重の意味で過去の遺産の恩恵を受けています。そして今後も展示を通して鉄道輸送が福岡県の発展に果たした役割と、文化財としての鉄道遺産の価値を、伝えていきたいと考えています。なお「福岡鉄道遺産ものがたり」は令和4年度も、8回目となる「日豊本線編」を計画しています。

## 【調査報告】

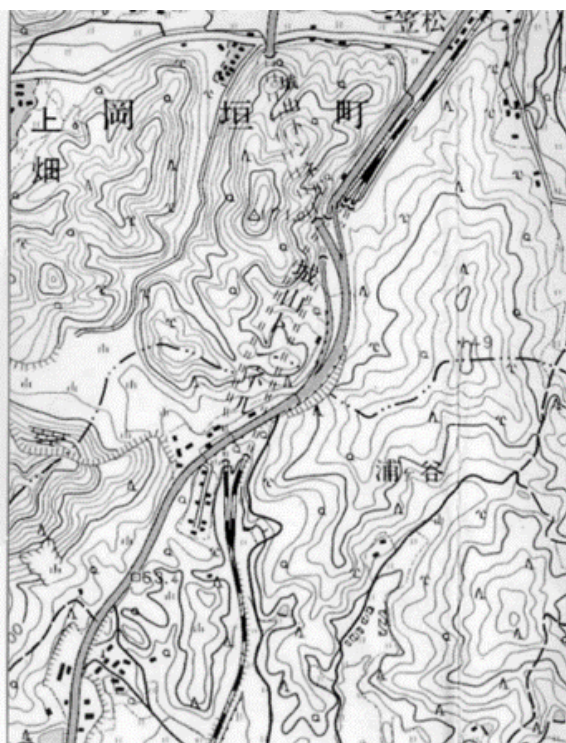
### 城山峠の廃線跡を歩く（宗像編）

木元富夫（顧問）

宗像市と遠賀郡岡垣町の境界にある JR 鹿児島本線城山（じょうやま）トンネルは、鉄道技術発達史の数次にわたる画期を物語る恰好の事例として小会編『福岡の近代化遺産』（弦書房、2008 年）に取り上げられている。即ち 1890 年に開通した九州鉄道は、「トンネル〔掘削の困難〕を避け、切り通しの山越えにしたため……急勾配が発生」

した。「このため峠頂上の真下にトンネルを新設し……緩勾配の新線に切換え、併せて複線化する改良工事が進められた」。1909 年の「トンネル開通により山越えの在来線は廃止され、旧線路跡の大部分は道路に転用された」

（地形図参照）。



図表 1 1900 年と 1970 年の地形図

城山峠は交通の要衝として、古くは奈良時代の官道が通り、現在は地上を県道と国道が、地下を鉄道が走っているが、道路に転用された線路跡とは、現在 JR 赤間駅辺りから勾配を増しつつ JR 線に並行し、教育大前駅辺りで JR 線とは方向を変え城山峠に至る県道 69 号線である。途中の赤間の陵厳寺バス停近くには、県道＝旧線路敷跡の下を潜り抜ける赤煉瓦積みのトンネルが

現役で残されている。（なお地形図のように、線路跡は JR 線トンネル北口近くを交差する形で乗り越え、それからは県道と離れて JR 線東側の樹林の中に消失し、平地に出たら遠賀川駅に向かうが、これについては「遠賀編」として改めて報告したい。）

さて産業遺産散歩ということで教育大前駅から城山峠までこの県道を歩いてみた。1 キロメートルほど歩くと城山交差点に着

くが、ここから県道は国道と合流し、更に進むと地図にあるように大規模な切通しの中にある峠のピーク辺りで国道と分岐している。この調査に際して手元に用意したのは『鉄道廃線跡を歩くⅡ』（宮脇俊三編著、1996年）中の「九州鉄道、旧城山峠越え」（138～139頁）であったが、歩いているうちに疑問が生まれてきた。同書に「線路跡は、国道3号そのもの」とあるのは、発行当時は現県道が当時国道であったための表記として、では「線路跡は県道そのもの」と読み替えればよいかどうかである。

九州鉄道の当初は「22.7パーミルの急勾配」で「常時後部補機を1両ないし2両付けてこの難所に挑んでいた」というが、こんにち車で県道を通る人は、城山峠をそれほど急勾配に感じないのではないかな。

そこで峠の切通し周辺を見回して気づいたのが、県道の左側（西側）に高い擁壁状の段差があり、その崖の上を時折トラックが走っているのである。狭い道路で紙の地図には出ていないが、グーグルマップの空中写真で見ることができる。この道路からは県道・国道を見下ろすことになる。そして右手の坂を下がった彼方の低地に赤間の町が見える。左手には写真のように広大な切通しが広がり、その地下（地形図によれば標高差約30メートルか）をトンネルが通っている。



図表2 古県道から現県道・国道を見下ろす

この景観から思うに、急勾配だったという線路敷のピークは、下の県道・国道上ではなく、いま立っている崖上の狭い道路の上にあったのではないかな。この狭い道路こそが元々の県道＝線路敷跡＝古県道であり、現県道は古県道とは別に、勾配を緩くするため、国道新設工事と併せて掘り下げて作られたのではないかな。こう考えると、かつての城山峠越えが急勾配だったことが実感として迫ってくるのだが、どうだろうか。

「鉄道廃線跡を歩く」には、城山峠バス停辺りの風景写真の説明として「城山峠の平坦部分。このあたりにかつて信号機があった」とあるが、どういう根拠によるのかな。現在見る「城山大切通し」の景観は、130年前の九州鉄道開通時のままではなく、古県道部分も含めて道幅も標高も、戦後の新国道建設によって大幅に改変された結果であることを考えるべきだろう。

以上老生のずさんな思いつきながら、車で駆け抜けるのではなく、ゆっくり歩いてみてこそ気づいたこととして報告する次第である。なお「古県道」は並行する県道とつながっているのだから、県道上り線から車で乗り入れて途中下車することができる。このピークに立つと、宗像と遠賀をすっぱり分ける城山峠からの眺望は素晴らしい。踏査の帰りはバスで、とバス停に行ったが、一日一便とのことで、城山峠の郡境障壁振りを痛感させられたことであつた。



## 【報告】

# 「北九州市平和のまちミュージアム」及び「小倉陸軍造兵廠跡」見学記

砂場一明（事務局長）

戦後生まれが8割を超え、戦争体験者が減少していく中、「東京大空襲・戦災資料センター（東京都江東区）が、開館20年を迎えた」との新聞記事を見た。昭和20年（1945年）3月10日、一夜にして10万人の命が奪われた東京大空襲の実態を伝える同センターは、行政の支援を受けない国立・民営だという。記事は最後にこうある。「東京都は1998年、資料を展示し犠牲者を追悼する祈念館の建設予算案を都議会に提出した。だが凍結されて今に至る。……民間の善意に頼るべきことではない。体験者が健在なうちにその記憶と体験、関連資料を収集し継承する公の施設を造るべきだ」。（毎日新聞2022年5月8日）

では北九州市ではどうか。戦前から国内有数の工業地帯であり、連隊や兵器製造所など多くの軍事施設が集中していたことから、幾度か激しい空襲に見舞われている。中でも昭和20年8月8日、八幡を中心に北九州全域が焼夷弾攻撃にさらされ、多くの市民が犠牲になった。その翌日、長崎市に原子爆弾が投下されたが、当初の目標地は小倉であったことも判明している。その標的にされた小倉陸軍造兵廠跡地の一角に今年4月、市によって建設されたのが「北九州市平和のまちミュージアム」である。

4月29日、九州産業考古学会の役員会を小倉で行ない、会議終了後見学に赴いた。同館の設立には本会の市原猛志氏がスタッフの中心となって準備段階から尽力されたことでもあり、案内もお願いした。

館内は、戦争と軍に翻弄された北九州市の変遷を伝える「常設展示室」に、「360度シアター」「企画展示室」が併設されている。

常設展示は「戦前の北九州」「戦争と市民の暮らし」「広がる戦争と空襲」「終戦の混乱と戦後復興」のゾーンに分けられている。展示される実物資料の多くは市民から提供されたものという。見上げるような「出征兵士壮行幟」を目にしたが、このような幟を作る時代が二度と来ないことを願うばかりであった。

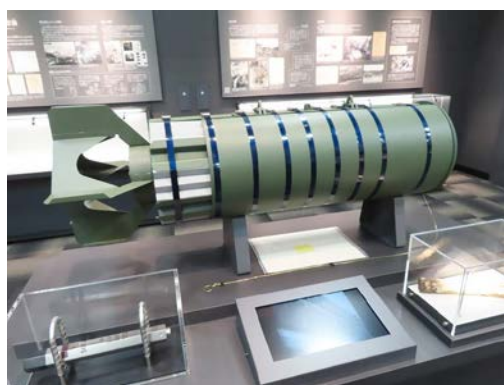


写真 M17 集束焼夷弾（レプリカ）



写真 風船爆弾（1/7レプリカ）

日本製の風船爆弾とアメリカ製の焼夷弾が対峙するように展示されていた。これらは複製であるため、間近で構造を観察することができる。映像と音響を駆使したシアターも必見であろう。八幡大空襲と、原爆搭載機の小倉飛来後、長崎に向かう様子が追体験できる。企画展示室では、長崎市の原爆資料館から貸与された被爆資料を見ることができた。今日の平和の意義を学び知るためにも、年齢を問わず観覧をお勧めする。

ミュージアム見学の後、造兵廠の敷地跡を歩いてみるようになった。ここは昭和8年に陸軍造兵廠小倉工廠として発足し、15年に小倉陸軍造兵廠に改称された。小倉城の南側に位置し、敷地約58万平方メートル。最盛期には約4万人が働き、銃器や砲弾・銃弾などの他、風船爆弾も製造した。構内には約270棟の施設が建ち並び、地下施設もある西日本最大級の兵器工場だった（朝日新聞2007年8月12日付記事参照）。

敗戦後、施設は駐留米軍のキャンプとして接收されたが、昭和34年に完全解除になり、今では造成されて市民の憩いの広場になっている。私が初めて構内に入ったのは、昭和35年春に開催された「小倉大博覧会」の時であった。パビリオンは造兵廠時代の建物をそのまま利用していたように記憶している。その後、敷地や建物の一部は払い下げられ工場や倉庫などに使用されていたが、それも老朽化と再開発により次々と取り壊された。最後まで残っていた一棟も、今回行ってみると更地になっていた。

目立った遺構は構内には見当たらなかったが、外周に僅かに確認できた。造兵廠時代のものと見られる石垣、敷地を囲んでいたコンクリート塀の一部、門柱の片方などである。「陸軍用地」と彫られた石標柱も幾つか残されていた。製品を搬送していた鉄道引込線跡は一部が公園の遊歩道になって

いるが、何の標示もないので、これは説明されないと気付かない。こういう次第で、ここがかつて造兵廠だったことを市民に偲ばせるものは、敷地をかたどった「小倉陸軍造兵廠跡記念碑」と、唯一原形のまま移設保存された「防空監視哨」と、縮小レプリカと化した「給水塔」くらいの物だろう。

実はもう一つ、巨大な遺構が残っているが、現在これは見る事が出来ない。昭和5～6年に構内の中央道路（現・清張通り）の真下に建造された地下道である。水道管や蒸気管、電気ケーブルなどが敷設され、人道や退避壕にもなっていた。総延長約1500メートルの内、約840メートルが残存している。ここは国が所有・市が管理しているようだが、正式に調査し適切に保存されることが望まれる。戦争資料館を持つ自治体は少ない。加えてここには隣接して松本清張記念館もある。小倉陸軍造兵廠跡地を訪れて小半日を過ごされることをお勧めしたい。



写真 防空監視哨（移設保存）



写真 給水塔（縮小レプリカ）

## 【お知らせ】

### 令和四年度総会について

今年の総会は福岡県太宰府市にある筑紫女学園大学にて開催、基調講演を久留米工業大学の森洋子先生にお願いしています。

記

日時：令和4年9月24日（土）

会場：筑紫女学園大学 8号館 8204 教室  
（福岡県太宰府市石坂 2丁目 12-1）

式次第

10:00～11:00 年次総会・決算予算承認

11:00～13:00 基調講演(50分)、研究発表  
大森洋子先生（久留米工業大学）

「歴史を刻んだ大牟田市庁舎」

14:00～18:00 見学会（参加費:2000円）

天満宮、城山三連橋梁、内野宿などをバスで巡ります。

会員の皆さまは参加可否と弁当有無について 9月15日までに 8 ページ末の事務局 (k-sunaba@jcom.home.ne.jp)へ必ずご返信を！

（注：会場周辺に飲食店はありません！）

送迎用のバスも用意いたします(JR 二日市駅 9:15 発・西鉄太宰府駅 9:40 発)ので、多くの方のご参加をお待ち申し上げます。



写真 軒桁に転用された帆柱  
（太宰府市・定遠館）

## 【お知らせ】

### 熊本まちなみトラスト シンポジウム

NPO法人熊本まちなみトラストは、団体設立 25 周年を記念するシンポジウムを熊本市中央区の早川倉庫を会場に開催いたします。新潟大学から松井大輔先生をお招きし、歴史的まちなみを活用する新潟・北九州門司、そして熊本を比較することで、それぞれの利点や問題点、これからの課題について明らかにし、今後への方策を導き出します。

（新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、内容に変更が生じる場合があります）

日時：令和4年11月26日（土）

会場：早川倉庫  
（熊本市中央区万町二丁目4番）

なお、詳しい内容については、下記アドレスの熊本まちなみトラストの Website をご覧ください。

<https://kumamoto-machinami-trust.org/>



写真 早川倉庫（1877年竣工）

## 【書籍紹介】

### 北九州市の文化財を守る会編

#### 『北九州歴史散歩 [豊前編]』、『北九州歴史散歩 [筑前編]』

時里奉明（会長）

この2冊は、NPO法人「北九州市の文化財を守る会」（守る会）の会員が、北九州市の史跡（建造物なども）の数々を、実際に歩いて調査し、執筆した本になっている。守る会は1971（昭和46）年に発足し、文化財に関する保存を中心に、年間を通じて会誌の発行や歴史講演会の開催を行ってきた。これまでに、八幡製鐵所東田第一高炉（1901）の保存、堀川周辺の環境整備、旧安川邸（洋館）の保存などの活動を行っている。このたび、守る会は発足50周年を記念して、北九州市の歴史ガイドブックを刊行したことになる。

筆者は最初に[筑前編]を手にとって、ページをめくってみた。旧筑前国にあたる若松区・八幡東区・八幡西区・戸畑区を50のエリアに分け、それぞれ写真や地図を数多く使いながら紹介している。そのうちの1つ、「『どてら婆さん』の墓と小石観音寺」の項目を取り上げてみよう。最初に小田山古墳群から始まり、火野葦平の小説「花と龍」に登場する「どてら婆さん」のモデルとなった女性の墓へと続く。この実際の「どてら婆さん」の女傑ぶりも興味をそそる。そして小石観音寺の800年を超える歴史を記したあと、大正時代に築造された菖蒲谷貯水池の説明で終わっている。それと気づかずに見過ごしてしまいそうな史跡に字数を割いている。しかも、写真つきである。

ところで、今まで北九州市の歴史ガイドブックのようなものはあったのか、ふと疑問に思ったので、少し調べてみた。その結果、北九州市教育委員会が発行したもの（『北九州市史跡ハンドブック』2009年）

を確認することができた。また守る会を代表とする8団体により編集したものもあった（『北九州市郷土史跡ガイドブック』2013年）。ただし、どちらも行政が関与し、発行部数が限られている。

つまり、本書は北九州市を対象とした、市販による最初の歴史ガイドブックといってよいだろう。時代を問わないあらゆる史跡に光を当てることにより、そのエリアの歴史が重層的に浮かび上がっている。産業遺産はもちろん、ほとんど知られていない戦争遺産が多いのも嬉しい。本書の最大の特徴であろう。なお、[豊前編]は[筑前編]と同様、旧豊前国にあたる門司区・小倉北区・小倉南区を58のエリアに分けて記述している。両書合わせて、北九州市となっている点もユニークである。

両書とも、それほど重くはなく、サイズ（A5版）も手ごろである。早速、本を小脇にかかえて、史跡巡りをさせていただきたい。（海鳥社、豊前編2019年、筑前編2020年、どちらも本体1800円）



写真『北九州歴史散歩[豊前編][筑前編]』

◇◇会報原稿募集（会員外でも応募できます！）◇◇

『九州産業考古学会報』への積極的な投稿をお願いします。募集原稿は【報告】（700字～1400字程度）や【研究発表】（1400～2800字程度）、【お知らせ】（400字以内）など。いずれも図表を入れる場合文字数要調整。また紙面の都合上、文面レイアウトに関して編集側で変更する場合があります。投稿に関する詳しい情報は学会ウェブサイト及び事務局まで。

■■会報第33号・目次■■

<b>【巻頭言】</b>	<b>【お知らせ】</b>
福岡鉄道遺産ものがたり……渡部邦昭 1	令和4年度年次総会について …………… 6
	熊本まちなみトラストシンポジウム…… 6
<b>【調査報告】</b>	<b>【書籍紹介】</b>
城山峠の廃線跡を歩く（宗像編） ……………木元富夫 2	北九州市の文化財を守る会編『北九州歴史散歩 [豊前編]』、『北九州歴史散歩 [筑前編]』 ……………時里奉明 7
<b>【報告】</b>	<b>【お知らせ】</b>
「北九州市平和のまちミュージアム」及び 「小倉陸軍造兵廠跡」見学記 ……………砂場一明 4	今後の予定 …………… 8 会費納入・ご寄付のお願い …………… 8

今後の予定		会費納入・ご寄付のお願い
2022年 10月10 ～19日	まちかどの近代建築写真展 in 八幡Ⅲ（北九州市立旧百三十銀行ギャラリー）	当会は年会費を個人会員 2000 円、団体会員は 5000 円それぞれ徴収しています。当会の趣旨をご理解頂き、会費納入或いはご寄付の程、宜しくお申し上げます。 会費納入・寄付先口座（一覧） ・ゆうちょ銀行 17430-88882241 キュウシュウサンギョウコウコガツカイ ・福岡銀行大牟田支店（店番 691） 普通 1914369 九州産業考古学会
10月 22日	「重要文化財 旧志免鉱業所竪坑櫓の保存」文化講演会 13:10～（シーメイトホール：福岡県志免町）	
11月 3日	NPO 法人 J-heritage・廃墟シンポジウム（仮）（神戸市中央区）	
12月		

<編集後記>

学会名の変更が提案され、実現すれば私が『九州産業考古学会報』を編集することはもうない、そう考えると感慨深いものがある。創刊号からこの間、「明治日本の産業革命遺産」の世界遺産登録や福岡県西方沖地震、熊本地震、各地の水害など、産業遺産を取り巻く状況には数多くの変化があった。私自身も熊本と北九州との往復が続いている。時間は有限である。改革・変更と言うのであれば、20年近く続けているこの編集についても、もうそろそろ考えて貰いたい。（市原）

九州産業考古学会事務局 〒811-3430 福岡県宗像市平井二丁目12-1 砂場一明 気付  
 TEL : 0940-36-5501 E-mail : k-sunaba@jcom.home.ne.jp URL : <http://kias.kilo.jp/index.php>  
 学会ML希望者は、上記アドレスもしくは Web 担当者 (iota\_titanus@yahoo.co.jp) まで連絡願います。